

# 北里大学東洋医学総合研究所活動報告

## 東洋医学総合研究所

所長 花輪 壽彦  
副所長 村主 明彦

教育・研究・診療・公益事業を中心とした事業を活発に展開した。

公益事業としては、これまで同様にWHO伝統医学研究協力センター活動、研究活動、及び教育活動を行った。

### 1) 大学院・学部教育

大学院教育：花輪壽彦所長は北里大学大学院医療系研究科「東洋医学」の指導教授（大学院教授）として「東洋医学」専攻の4名（修士課程1名、博士課程3名）の大学院生の教育・研究指導を行った。大学院生の教育・研究指導には村主明彦、伊藤剛、小曾戸洋、及川哲郎、山田陽城、早崎知幸、清原寛章、日向須美子らも分担した。山田陽城部門長は北里大学大学院感染制御科学府（学府長：山田陽城）の「和漢薬利用科学」の主科目の講義と特別研究指導教授として8名の修士課程の大学院生の教育・研究指導を行った。研究指導は北里大学北里生命科学研究所（所長：山田陽城）の和漢薬物学研究室で行った。清原寛章基礎研究部副部長（准教授）は大学院感染制御科学府の「機能性分子科学」の副科目の講義を行った。清原副部長に加え、永井隆之室長補佐（専任講師）、矢部武士主任（専任講師）も同大学院の「和漢薬利用科学」の講義の一部及び基本技術講座を始め研究室所属大学院生の特別研究及び輪講の指導を行った。学部教育：花輪壽彦所長は引き続き兼任で薬学部（東洋医学概論）の講義を清原寛章副部長（兼任）、早崎知幸副部長（兼任）とともに行った。また、花輪所長は医学部・獣医学部・水産学部・一般教育部の講義を、また山田陽城部門長は薬学部（薬用植物学、生薬学）、一般教育部及び獣医学部の講義を担当した。緒方千秋薬剤科科長、坂田幸治薬剤科科長補佐は、薬学部（生薬学、漢方病院実習）の漢方実習の指導を行った。伊藤 剛漢方診療部副部長は、兼任で医学部（公衆衛生学）の漢方臨床実習について東医研各部部长、室長の協力のもと指導した。また東医研からは外部の10大学医学部や薬学部に講師を派遣し、東洋医学関連の講義を行った。

### 2) 啓蒙活動

北里大学東洋医学総合研究所では、東洋医学の啓蒙活動の一環として、例年「東洋医学健康フォーラム」を開催している。第9回目となる平成21年度は、10月3日（土）午後2時から、東京港区の北里大学薬学部コンベンションホールで開催した。

テーマは「女性のための東洋医学-漢方・鍼灸の立場から-」。漢方診療部・齋藤絵美医長〔演題：女性疾患と漢方〕と望月良子医師〔演題：女性の心と皮膚〕、鍼灸診療部・伊藤剛部長〔演題：女心と秋のツボ〕、そして薬剤部・中村恵子主任〔演題：薬草の話〕の4人が、それぞれ30分の講演を行った。また、ロビーに漢方薬の試飲コーナーを設け、当研究所薬剤部の薬剤師が煎じたばかりの漢方薬を参加者に味わっていただいた。

今年度は定員300人に対して500人を超える多くの方から応募があった。先着順に締め切り入場券を送付し、最終的には280名が出席された。入場券をお送りできなかった方々には、来年度は前もって開催の案内をお送りする予定である。参加者のアンケートを参考に、次年度以降もさらに内容の充実に努め、健康フォーラムを通じて東洋医学の正しい知識と普及に役立てたいと考えている。

そのほか、各種団体への講師派遣、新聞雑誌への情報の提供、マスコミの取材に積極的に応じるなど、啓蒙活動を活発に展開した。

### 3) 第31回医学生・研修医のための東洋医学セミナー開催

昨年度まで医学生・研修医のための東洋医学セミナーとして開催してきたが、今年度より現状に即して医学生・臨床医のための東洋医学セミナーとして開催することとなった。期間は例年通り5日間とし、今回は7月27日から31日に開催された。

受講生は医学生14名、臨床医13名であり、昨年と比べ特に臨床医の参加者が増加した。2002年に医学教育のコア・カリキュラムに漢方薬の内容が組み込まれたことに伴い2004年にはすべての医学部で漢方医学教育が実施されるようになり、医学生に対する教育環境が増えている一方、臨床医においては漢方医学に対する関心の高さと比較して卒後教育の場がまだまだ不足していると考えられる。

例年、講義、実習（漢方・鍼灸・薬局）、特別講演というカリキュラム構成で行っており今年度も

それに準じた。一部カリキュラム・テキストの見直し、実習時間増を実施したところ、受講生からも好評であった。特別講演は飯塚病院東洋医学センター所長の三瀧忠道先生から「総合病院における漢方診療の実際」について、千葉大学大学院医学研究院和漢診療学教授の寺澤捷年先生からは「和漢診療学のめざすもの」という題で御講演をいただいた。また、昨年に引き続き医師の受講生のみ6日目に漢方外来見学を設け、実際に外来風景を見ることでより漢方診療を身近に感じてもらい、好評であった。

#### 4) WHO伝統医学研究協力センター関係及び国際交流

東医研WHO伝統医学研究協力センターの花輪壽彦センター長は11月11日から13日までオーストラリアのメルボルンで開催された第5回WHO伝統医学研究協力センター長会議に出席した(小田口浩事務局長随行)。前回2006年12月に中華人民共和国の上海で開催された第4回センター長会議においてWHO本部とセンター間、あるいは各センター間の情報交換、交流の基盤作りが話し合われたが、今回はそれを基礎に、各センターがWHO活動にいかなる貢献をなし得るか、という点に焦点が当てられ、活発な議論が行われた。その過程で、各国の実情に応じて伝統医学を国民の健康に役立てる方策について、国内外WHO伝統医学研究協力センターのセンター代表者と実のある情報交換が行われた。

小田口浩事務局長は3月30日から4月1日にかけてイタリアのミラノで開催されたWHO working group meeting on clinical studies on phytotherapyに出席した。伝統医学領域においてもEBMが要求される現状を反映し、各国の伝統医学のEvidence集積状況をどのようにまとめるかについての方法論が話し合われた。

現在中華人民共和国が主導して東アジア伝統医学についての種々の標準化が企図されている。花輪壽彦センター長をはじめとする東医研メンバーは、日本東洋医学サミット会議(通称JLOM)を通じて、この標準化を日本の伝統医学である漢方医学の保護、発展につなげるべく活動を行っている。

その他の国際的活動として、ベトナムからのWHOフェロー研修受け入れ、NPO法人日中医学交流センターの依頼による中国中医学研究者見学受け入れ、ノルウェーからの大学院研究生受け入れ、韓国韓医学院からの研修生受け入れ、海外への講師派遣(山田:広州、清原:バンコク、小田口:ソウル)などが行われ、また医史学研究部が中国・米国と、また基礎研究部がフランス・タイ・サウ

ジアラビア・ノルウェーの研究機関と継続的な国際共同研究を実施した。

## I. 漢方鍼灸治療センター

センター長 花 輪 壽 彦 (兼務)  
副センター長 村 主 明 彦 (兼務)  
副センター長 伊 藤 剛 (兼務)

### I-1. 診療部門

診療部門長 村 主 明 彦

#### I-1-1. 漢方診療部

部 長	花 輪 壽 彦 (兼務)
部 長	村 主 明 彦 (兼務)
副 部 長	伊 藤 剛 (兼務)
副 部 長	及 川 哲 郎 (兼務)
副 部 長	鈴 木 邦 彦
副 部 長	早 崎 知 幸
医 長	小 田 口 浩 (兼務)
医 長	齋 藤 絵 美
医 員	伊 東 秀 憲 (兼務)
医 員	星 野 卓 之
漢方レジデント	望 月 良 子
漢方レジデント	山 田 和 美
漢方レジデント	石 井 恵 美
漢方レジデント	福 田 知 顕
漢方レジデント	洪 里 和 良
漢方レジデント	堀 川 朋 恵 (4/1～)
漢方レジデント	堀 田 広 満 (4/1～)
非常勤医師	頼 建 守
非常勤医師	櫻 井 正 智
非常勤医師	高 橋 裕 子
非常勤医師	五 野 由 佳 理 (4/1～)
非常勤医師	渡 辺 浩 二
非常勤医師	八 代 忍 (大学院生)
非常勤医師	津 田 篤 太 郎 (大学院生)

※漢方診療部は臨床研究部兼務

#### ◇漢方診療の活動概要

北里東医研の診療部門及び薬剤部門は、より親しみやすい漢方鍼灸治療センターの呼称を冠し、さらなる発展を目指している。

当研究所の漢方外来では、湯液を中心にした診療を行っている。当然のことながら、漢方独特の診察法である四診に基づいた随証治療であり、患者個人個人の病態に合わせたキメの細かい、テーラーメイド医療を実践している。

また全国からの患者様を受け入れるために、6つの診察室を毎日フルに活用している。受診時間に関しても、より幅広いニーズに応えるため「ト

ワイルド外来」を設置している。金曜日のみではあるが夜7時まで診療を行い、従来受診できなかった患者への対応を図っている。

漢方診療専門機関である当診療部門には伝統的随証治療の修得と漢方医学の科学的解明を目的に全国、時に世界各地から多くの医師や医学部の学生が集まる。漢方診療部での受け入れにはいくつかのルートがあるのでここに紹介する。

第一は当研究所独自の漢方レジデント制度である。所属する医局の教授や病院長などの推薦のもと、3年の年限で漢方医学の実際を会得することを目標にしている。1期2～3名を定員として受け入れている。応募者は漢方については初学者であっても、それぞれの専門分野では既に専門医として第一線で活躍している中堅医師が大半である。各専門分野に関する最新の知見については、漢方常勤医が逆の立場で教わることも多く、互いに鼓舞されるところ大である。第二として、花輪壽彦所長が教授を兼任する北里大学大学院医療系研究科東洋医学の院生としての受け入れである。漢方診療の研修と漢方の基礎・臨床研究に携わりながら、4年後の学位取得を目標とする。従来の個性を大切に漢方に、EBMの新しい切り口を加えるべく日夜奮闘中である。サポートには基礎研究部、臨床研究部のスタッフが当たっており、新設まもないEBMセンターの助言や指導も研究推進の大きな力となっている。第三は北里大学医学部学生の漢方外来見学で、同医学部公衆衛生の実習の一環として受け入れをしている。近年、北里大学薬学部との連携も強化されてきており、薬学部生の見学実習も必修化された。第四は医学部のクリニカルクラークシップの実習先として、熱意ある学生を受け入れている。またその他少数であるが、個人的な依頼による短期見学（ただし運営会議において了承される必要あり）にも応じている。第五として、漢方研修生の受け入れ制度を導入している。本来の所属機関を離れられない医師のために、週に1度、当漢方外来の漢方専門医に陪席し、漢方研修を行なうものである。各科の基本領域の認定医、指導医資格を有する者を対象とし、所定の出席率と指導期間を満たすと日本東洋医学会専門医受験資格が得られる。

さて、当研究所の週間スケジュールを概観してみよう。月曜日午前は所長の指導外来枠となっており、先輩医師の指導のもと、レジデントあるいは大学院生が陪席し所長外来の見学を行なう。漢方医学的仮診断・処方（鑑別処方を付記）を決定した後、所長の診断との摺り合わせを行なう。漢方診療のプロセスを体得できる数少ない機会である。この他にも当研究所ではオーブン・ネーベン

制を導入し、オーブン外来への陪席の他、マンツーマンでの古典の読み合わせなども行われている。

外来以外にも漢方を学ぶ機会が多数用意されている。新患検討会、医局薬局勉強会、フォローアップ検討会、古典勉強会、抄読会・リサーチカンファレンスなどである。このうち、新患検討会では、会に先立つ1週間の全新規患者のチェックを行なう。漢方外来を始めたばかりの新人医師は診断のプロセスや鑑別診断まで詳細なプレゼンを課せられる。指導医は自己の症例の中から教育的示唆に富むものを選別しプレゼンを行なう。この会で使用するデータベース作成作業がレジデントに課せられる。新患ひとり一人の舌証・脈証・腹証・方剤等を打ち込んで行くきわめて煩瑣な作業である。しかし、陪席できなかった他の漢方担当医の処方決定のプロセスを追体験することにもなる。目的意識をもって取り組みれば、これほど有益な漢方修得の機会もない。医局薬局勉強会は、生薬と漢方方剤の総合学習の場である。日頃は疑義紹介などでしか接する機会のない医局と薬局の関係であるが、互いの意思疎通をはかる格好の機会となっている。フォローアップ検討会は、外来診療で経験した著効例や難治例など、注目すべき症例につき検討する会である。新患検討会で話題になった症例をもとに、漢方レジデントが考察を加え発表することが多い。古典勉強会では、小曾戸医史学研究部長による古典の概説が行われる。当研究所のバックボーンを担う医史学研究部ならではのユニークな講義に、自由参加にも関わらず部署の垣根を越えて毎回多くの受講者を集めている。また花輪所長による古典講義も随時行なわれている。時には広尾周辺の医家にゆかりの深い寺院をまわる、医史学史跡探訪ツアーも行なわれている。リサーチカンファレンスは、研究面での検討や結果報告を行う機会として、臨床研究部と合同で行っている。

医局には専用の百味筆筒が用意されていて、自身で自由に漢方薬を調合し服用することができる。レジデントには研修期間中に大方の処方については、必ず煎じてその味・におい・服薬のしやすさ等を自ら経験するよう要求される。個々の漢方薬の特徴をつかむと同時に、患者の立場にたった医療を感得する貴重な体験である。特殊な動物性生薬を含む方剤を体験試飲することなど、北里東医研以外ではほとんど無理な話であろう。このように北里東医研では漢方三昧の日々を送ることが可能で、漢方を志す者に理想の環境を提供している。

レジデント・常勤医も含め、医局員の大半は臨床研究部研究員および隣接する北里研究所病院総

合内科医師を兼任している。必要があつて要件を満たせば、動物も含めた各種実験・研究も行える。また各種血液・生化学検査、画像診断、光学医療診断を行なうことも可能で、診療の自由度という点でも申し分のない環境である。東医研から北里研究所病院には毎週上部消化管検査および下部消化管検査、女性科、頭痛センター外来などに人員を提供している。さらに、同病院の内科当直業務も分担し万全な協力体制が敷かれている。現在、懸案であつた「漢方ドック」構想の実現に向けて北研予防医学センターとの協議を重ねている。

平成20年4月に学校法人北里学園と社団法人北里研究所の統合がなされ、当研究所は学校法人北里研究所北里大学東洋医学総合研究所へと名称を変更し再スタートを切った。以来2年が経過し、統合を機に様々な変化・変革が起きつつある。大学の一員として教育の比重が増してきている。内部的な学部、院生の教育に加え、対外的には東洋医学会漢方専門医の養成カリキュラムに完全に準拠した研修が実施されている。このような養成システムをもった漢方機関は他になく、漢方普及の社会的使命の一端を担っている。北里東医研は漢方を真に学びたい、普及させたいという様々な要望に多種多様のメニューを準備し対応している。診療・教育・研究のバランスを常に保ちながらその発展に寄与することこそが、日本の本格的漢方診療研究機関のバイオニアを自認する北里・東医研に課せられた使命である。

#### ◇学術論文（症例報告書）

- 1) 大塚静英、及川哲郎、望月良子、早崎知幸、小曾戸洋、伊藤剛、村主明彦、花輪壽彦：難治性の顔面の皮疹に葛根紅花湯が著効した3症例、日本東洋医学雑誌、60(1)：93-97、2009.1.20
- 2) 洪里和良、石井恵美、鈴木邦彦、村主明彦、花輪壽彦：円形脱毛症に十全大補湯が著効した3症例、漢方の臨床、56(2)：264-270、2009.2.1
- 3) 卯木希代子、早崎知幸、鈴木邦彦、及川哲郎、花輪壽彦：耳鳴に対する蘇子降気湯の治療経験、日本東洋医学雑誌、60(2)：161-166、2009.3.20
- 4) 齋藤絵美、五野由佳理、小田口浩、花輪壽彦：不正性器出血を主訴とした症例に十全大補湯が有効であった2例、漢方の臨床、56(3)：487-492、2009.3.24
- 5) 福田知顕、伊藤剛、村主明彦、花輪壽彦：四逆散が特発性過眠症に奏効した一例、漢方の臨床、56(4)：699-706、2009.4.25

- 6) 山田和美、及川哲郎、齋藤絵美、鈴木邦彦、花輪壽彦：桂枝去桂加茯苓白朮湯が有効であった4例、日本東洋医学雑誌、60(3)：397-401、2009.5.20
- 7) 鈴木邦彦、早崎知幸、及川哲郎、花輪壽彦：五苓散が有効であった花粉症の3症例、漢方の臨床、56(5)：853-857、2009.5.25
- 8) 石井恵美、米田吉位、山田和美、早崎知幸、村主明彦、花輪壽彦：小児難治性ネフローゼ症候群の2例、漢方の臨床、56(6)：1008-1012、2009.6.25
- 9) 山田和美、望月良子、花輪壽彦：「子宮の冷え」に対し附子湯を用いた症例、漢方の臨床、56(8)：1361-1366、2009.8.1
- 10) 早崎知幸、鈴木邦彦、花輪壽彦：導水茯苓湯が有効であった1症例、漢方の臨床、56(9)：1518-1521、2009.9.1
- 11) 望月良子、洪里和良、及川哲郎、花輪壽彦：皮膚疾患に奏効した大柴胡湯の2例、漢方の臨床、56(10)：1716-1722、2009.10.1
- 12) 星野卓之、伊藤秀憲、齋藤絵美、花輪壽彦：外陰そう痒症・反復性膀胱炎・慢性色素性紫斑に温清飲と苦参湯外用が有効であった1例、漢方の臨床、56(11)：1900-1904、2009.11.1
- 13) 望月良子、及川哲郎、村主明彦、花輪壽彦：大青竜湯がアトピー性皮膚炎に奏効した1例、日本東洋医学雑誌、60(6)：629-633、2009.11.1
- 14) 洪里和良、福田知顕、五野由佳理、及川哲郎、花輪壽彦：帯状疱疹関連痛の治療経験、漢方の臨床、56(12)：2105-2109、2009.12.1

#### ◇学術論文（総説）

- 1) 齋藤絵美、花輪壽彦：更年期障害の漢方療法、産婦人科治療、98：61、2009.1.1
- 2) 花輪壽彦：気血水による病態の認識、治療、91(6)：1644-1648、2009.6.1
- 3) 花輪壽彦：総合医に必要な漢方の診療、診断と治療、第97巻・第8号：1520-1525、2009.8.1
- 4) 星野卓之、花輪壽彦：消化器疾患に用いられる一般用漢方製剤、漢方と最新治療、18：173、2009.8.1
- 5) 花輪壽彦：気管食道領域における漢方医学～漢方の考え方や治療の特徴～、日気食会報、60(5)：373-378、2009.10.1

#### ◇学会発表（一般演題）

- 1) 五野由佳理、早崎知幸、鈴木邦彦、村主明彦、緒方千秋、金成俊、花輪壽彦：漢方薬による薬物性肝障害と考えられた症例の検討、第

- 60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.243]
- 2) 山田和美、早崎知幸、花輪壽彦：竜胆瀉肝湯（薛氏医案）の皮膚疾患に対する応用、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.315]
  - 3) 星野卓之、渡辺浩二、蒲生裕司、矢数芳英、天野陽介、小曾戸洋、花輪壽彦：『薬治通義』の研究、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.264]
  - 4) 福田知顕、伊藤 剛、花輪壽彦：下半身の冷えに桂枝湯が奏効した症例、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.312]
  - 5) 望月良子、若杉安希乃、小田口浩、及川哲郎、花輪壽彦：アトピー性皮膚炎の漢方随証治療における満足度の検討、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.297]
  - 6) 鈴木邦彦、花輪壽彦：桂枝加附子湯が有効であった3例、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.221]
  - 7) 齋藤絵美、関口敦子、花輪壽彦：当施設における更年期障害に対する漢方随証治療の検討、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.272]
  - 8) 伊藤 剛、及川哲郎、花輪壽彦：胸脇苦満の現代医学的解明と臨床的意義、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20
  - 9) 早崎知幸、高橋裕子、花輪壽彦：治喘一方の有効性の検討、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20
  - 10) Toshihiko Hanawa, Hiroshi Odaguchi, Akino Wakasugi, Emi Saito, Yukari Gono, Tomoyuki Hayasaki, Kunihiko Suzuki, Tetsuro Oikawa, Go Ito, Akihiko Muranushi: Kitasato Kampo Finding Project1-Standardization-第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.21 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.392]
  - 11) 洪里和良、五野由佳理、村主明彦、花輪壽彦：麗沢通気湯が嗅覚障害に奏効した2症例、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.21 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.369]
  - 12) 石井恵美、及川哲郎、早崎知幸、津田篤太郎、小田口浩、花輪壽彦：大防風湯が著効した関節リウマチ（RA）の1例、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.21 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.286]
  - 13) 伊藤 剛、及川哲郎、花輪壽彦：紅参の冷え症に対する臨床的効果の検討-単回摂取効果について-、第26回和漢医薬学会学術大会（千葉）、2009.8.30
  - 14) 洪里和良、伊藤剛、花輪壽彦：茯苓杏仁甘草湯が奏効した心不全の1症例、第66回日本東洋医学会関東甲信越支部総会（栃木）、2009.9.27
  - 15) 福田知顕、村主明彦、花輪壽彦：麦門冬湯投与により臨床症状と顎下腺腫張の改善がみられたシェーグレン症候群の1例、第66回日本東洋医学会関東甲信越支部総会（栃木）、2009.9.27
  - 16) 堀田広満、及川哲郎、花輪壽彦：関節炎を合併した掌蹠膿疱症に柴胡桂枝湯が有効であった一例、第19回漢方治療研究会（大阪）、2009.10.11
  - 17) 堀川朋恵、早崎知幸、花輪壽彦：補陰湯が奏功した腰痛2症例、第19回漢方治療研究会（大阪）、2009.10.11
  - 18) 伊藤 剛：冷え症の足冷却反応に対する自律神経バランスの影響、第61回日本自律神経学会総会（和歌山）、2009.11.6
- ◇学会発表（シンポジウム、パネル）
- 1) 早崎知幸：サイコオンコロジーとしての漢方第60回日本東洋医学会学術総会サテライトシンポジウム第25回臨床東洋医学研究会、テーマ 集学的医療と漢方-がん治療に対する漢方の貢献-（東京）、2009.6.19
- ◇学会発表（講演）
- 1) 五野由佳理：痛みの東洋医学的解釈、第43回日本伝統獣医学会大会（神奈川）、2009.1.31
  - 2) 花輪壽彦：指導医講習会1（専門医に必要な漢方の知識と技術）、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20
  - 3) 齋藤絵美：基礎講座8「月経異常、冷え・ほてり」、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20
  - 4) 花輪壽彦：指導医講習会2（専門医に必要な漢方の知識と技術）、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.21
  - 5) 花輪壽彦、寺澤捷年、丁 宗鐵：漢方で、みんなハッピーライフ「こんな症状は漢方で治そう」、第26回和漢医薬学会学術大会市民公開講座（千葉）、2009.8.29
  - 6) 花輪壽彦：大塚恭男先生のカルテから、平成21年度日本東洋医学会関東甲信越支部第1回東京都部会（東京）、2009.10.18
  - 7) 伊藤 剛：背診・切経からみる漢方診断、平

成21年度日本東洋医学会関東甲信越支部第1回  
東京都部会（東京）、2009.10.18

- 8) 花輪壽彦：ストレスと漢方、第25回日本ストレス学会学術総会・第27回日本青年期精神療法学会総会合同大会（神奈川）、2009.12.4

#### ◇公開講座

- 1) 村主明彦：類用処方解説②、明治薬科大学薬剤師生涯学習講座（東京）、2009.1.13
- 2) 早崎知幸：心と脳のバランスを保つための食事、下目黒小学校家庭教育学級（東京）、2009.1.18
- 3) 五野由佳理：頭痛治療の漢方豆知識、第9回埼玉頭痛研究会学術講演会（埼玉）2009.2.6
- 4) 早崎知幸：ストレス疾患の漢方治療、JOYFUL KAMPO SEMINAR、In Minato(東京)、2009.2.18
- 5) 花輪壽彦：漢方所見平準化の試み、第2回和漢薬の科学研究シンポジウム「基調講演」(富山)、2009.2.28
- 6) 花輪壽彦：老いと戦う！-アンチエイジングと漢方-、大田原赤十字病院市民講座(栃木)2009.4.4
- 7) 早崎知幸：「老いとたたかう！-アンチエイジングと漢方-」、大田原赤十字病院/株式会社ツムラ共催、「漢方薬は魔法の薬か!？」(栃木)、2009.4.5
- 8) 花輪壽彦：漢方概論、漢方薬・生薬研修会（東京）、2009.4.19
- 9) 花輪壽彦：漢方各論-免疫・アレルギー-漢方薬・生薬研修会（東京）、2009.4.19
- 10) 花輪壽彦：漢方について、経済同友会講演会（東京）、2009.5.8
- 11) 村主明彦：皮膚科領域の漢方 横浜漢方スキルアップセミナー～北里大学東洋医学総合研究所のDrは漢方薬をこう使う！～（神奈川）、2009.5.13
- 12) 鈴木邦彦：証のとらえ方-日本漢方の立場から-第25回座間漢方研究会（神奈川）、2009.5.21
- 13) 五野由佳理：各科領域の漢方治療の実際、明治薬科大学薬剤師生涯学習講座（東京）、2009.5.31
- 14) 早崎知幸：がんの漢方治療、明治薬科大学薬剤師生涯学習講座（東京）、2009.6.28
- 15) 伊藤 剛：精神科領域の漢方、横浜漢方スキルアップセミナー～北里大学東洋医学総合研究所のDrは漢方薬をこう使う！～（神奈川）、2009.7.8
- 16) 齋藤絵美：薬剤師として知っておきたい漢方概論、2009東京都女性薬剤師会・夏期研修会漢方講座（東京）、2009.7.12
- 17) 早崎知幸：漢方と癌治療、経済同友会同友クラブ「健康ライフを考える会」（東京）、2009.7.23
- 18) 花輪壽彦：東洋医学の基礎-陰陽虚実・気血水・証について- 第31回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー（東京）、2009.7.27

- 19) 花輪壽彦：東洋医学の特質と展望、第31回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー（東京）、2009.8.1
- 20) 花輪壽彦：古典の重要性、第4回鍼灸学校教員のための古典講座（東京）、2009.8.6
- 21) 花輪壽彦：漢方医学概論1（基本概念）、第14回富山大学和漢医薬学総合研究所夏期セミナー（富山）、2009.8.19
- 22) 花輪壽彦：現代医療における漢方の役割、日本東洋医学会卒前セミナー（東京）、2009.8.24
- 23) 早崎知幸：耳鼻咽喉科領域の漢方、横浜漢方スキルアップセミナー～北里大学東洋医学総合研究所のDrは漢方薬をこう使う！～（神奈川）、2009.9.9
- 24) 早崎知幸：使えるようになるための漢方入門講座、ツムラ漢方医学入門セミナー（東京）、2009.9.13
- 25) 早崎知幸：癒食同源、川崎市多摩区食育交流会（神奈川）、2009.9.15
- 26) 鈴木邦彦：漢方診療の実際、第26回座間漢方研究会（神奈川）、2009.9.17
- 27) 齋藤絵美：女性疾患と漢方、第9回東洋医学健康フォーラム（東京）、2009.10.3
- 28) 望月良子：女性の心と皮ふ、第9回東洋医学健康フォーラム（東京）、2009.10.3
- 29) 花輪壽彦：働く女性のメンタルヘルス、第12回市民公開漢方セミナー（東京）、2009.10.15
- 30) 望月良子：皮膚疾患と漢方、第6回北里漢方医学セミナー（神奈川）、2009.10.21
- 31) 早崎知幸：かぜ・インフルエンザと漢方治療、第93回相模原市医師会東洋医学研究会、医師のための漢方入門講座（神奈川）、2009.10.21
- 32) 花輪壽彦：高齢者疾患と漢方、第10回さんりく漢方研究会（宮城）、2009.10.23
- 33) 伊藤 剛：ストレスと消化器疾患、浜松医師会学術講演会（静岡）、2009.10.24
- 34) 齋藤絵美：産婦人科領域の漢方、横浜漢方スキルアップセミナー～北里大学東洋医学総合研究所のDrは漢方薬をこう使う！～（神奈川）、2009.11.10
- 35) 山田和美：更年期障害の漢方治療、ツムラ厚木領域別セミナー（神奈川）、2009.11.11
- 36) 星野卓之：インフルエンザと漢方、経済同友会木曜グループ講演会（東京）、2009.11.11
- 37) 鈴木邦彦：実習シリーズ2、第7回北里漢方医学セミナー（神奈川）、2009.11.18
- 38) 齋藤絵美：婦人科疾患の漢方、明治薬科大学薬剤師生涯学習講座（東京）、2009.11.22
- 39) 星野卓之：風邪と漢方、渋谷区医師会学術講演会（東京）、2009.11.24

- 40) 早崎知幸：-「食」を通して親子のコミュニケーションを考える-、奥沢中学校家庭教育学級(東京)、2009.12.2
- 41) 花輪壽彦：漢方各論-漢方診療の諸注意-、漢方薬・生薬研修会(東京)、2009.12.13
- 42) 花輪壽彦：漢方のまとめ、漢方薬・生薬研修会(東京)、2009.12.13
- ◇その他
- 1) 齋藤絵美：めざせ冷え症オンナ脱出、オレンジページ、2009.1.17
- 2) 花輪壽彦：漢方なんでも道場、毎週火曜日夕刊連載、2009/1/6-2009/1/27、日本経済新聞
- 3) 花輪壽彦：漢方なんでも道場、毎週日曜日連載、2009/2/1-2009/12/27、日本経済新聞
- 4) 伊藤 剛：冷え症スペシャル「最終警告！ほんと怖い家庭の医学」、テレビ朝日、2009.1.27
- 5) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです(カルテNo.12,耳の下がよく腫れるのですが…)、SEVENTEEN、2月号：207、2009.2.1
- 6) 伊藤 剛：街の足湯、癒しの場に、朝日新聞夕刊 (be! evening) 街歩きコーナー、2009.2.17
- 7) 伊藤 剛：東洋医学よりみたメンタルヘルス-身体表現性障害-、第1回統合医療セミナー(東京)、2009.2.20
- 8) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです(カルテNo.13,冷え性で冬がづらいよ~)、SEVENTEEN、3月号：213、2009.3.1
- 9) 齋藤絵美：月経痛・月経不順、婦人之友、103(4)：132、2009.3.24
- 10) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです(カルテNo.14,むくみやすいのが悩み)、SEVENTEEN、4月号：219、2009.4.1
- 11) 花輪壽彦：漢方概論、北里大学大学院臨床講義(神奈川)、2009.4.8
- 12) 花輪壽彦：東洋医学概説、山梨県立大学看護学科東洋医学講義(山梨)、2009.4.23
- 13) 伊藤 剛：いますぐ使える雑学クイズ「クイズ雑学王スペシャル」、テレビ朝日、2009.4.29
- 14) 伊藤 剛：東洋医学を看護に生かす、山梨県立大学看護学科東洋医学講義(山梨)、2009.4.30
- 15) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです(緊張や不安でおなかがぐだります!)、SEVENTEEN、5月号：197、2009.5.1
- 16) 伊藤 剛：夏の掘り出し物(第2部)、通販生活、2009年夏号：60-63、2009.5.1
- 17) 花輪壽彦：漢方について、日本工業倶楽部座談会(東京)、2009.5.7
- 18) 花輪壽彦：漢方概論、北里大学医学部第1学年  
 教養演習B、農医連携論(神奈川)、2009.5.19
- 19) 花輪壽彦：東洋医学(1)、北里大学医学部第3学年薬理学総論(神奈川)、2009.5.22
- 20) 伊藤 剛：東洋医学と西洋医学、静岡県立大学看護学部医療論講義(静岡)、2009.5.22
- 21) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです(できるとわずらわしい口内炎!対処法は?)、SEVENTEEN、6月号：197、2009.6.1
- 22) 早崎知幸：「ツムラ・メディカル・トゥデイ」漢方頻用処方解説シリーズ「八味地黄丸」、株式会社日経ラジオ社、2009.6.3
- 23) 伊藤 剛：つらい夏の冷え性即効解決、健康情報誌「元気」、7月号：2月3日、2009.7.1
- 24) 花輪壽彦：気剤の科学的研究、武田薬品工業株式会社社内セミナー(東京)、2009.7.10
- 25) 花輪壽彦：漢方診療の実際、北里大学大学院感染制御科学府、和漢薬利用科学講義(東京)、2009.7.15
- 26) 伊藤 剛：夏用腹巻き・夏用スパッツ からの道具 ビカイチ辞典、09~10年版：56、2009.7.15
- 27) 花輪壽彦：「ツムラ・メディカル・トゥデイ」漢方医人列伝「名古屋玄医」、株式会社日経ラジオ社、2009.7.22
- 28) 伊藤 剛：地球の女の子は大変なんです(なかなか眠りにつけないのが悩み)、SEVENTEEN、8月号：219、2009.8.1
- 29) 花輪壽彦：東洋医学入門、北里大学薬学部第3学年「東洋医学概論」(東京)、2009.9.11
- 30) 早崎知幸：漢方医学の基礎知識、北里大学薬学部3年後期 東洋医学概論(東京)、2009.9.16
- 31) 望月良子：アトピー性皮膚炎 漢方治療の立場から、第2回統合医療セミナー(東京)、2009.9.18
- 32) 花輪壽彦：「ツムラ・メディカル・トゥデイ」漢方医人列伝「後藤良山」、株式会社日経ラジオ社、2009.9.23
- 33) 早崎知幸：漢方エキス製剤のやさしい使い方、北里大学薬学部3年後期 東洋医学概論(東京)、2009.9.30
- 34) 早崎知幸：各科疾患の漢方治療1、北里大学薬学部3年後期 東洋医学概論(東京)、2009.10.7
- 35) 早崎知幸：各科疾患の漢方治療2、北里大学薬学部3年後期 東洋医学概論(東京)、2009.10.14
- 36) 花輪壽彦：漢方医学の基礎、北里大学動物資源科学科1年次「動物資源科学概論2」(神奈川)、2009.10.26
- 37) 伊藤 剛：冷え症対策のカギは、食事・運動・基礎代謝アップ! Health Care Report (味

の素株式会社健康事業開発部)、2009:1月7日、2009.11.1

- 38) 花輪壽彦: 腎・尿路の東洋医学、北里大学医学部4学年腎・尿路系Ⅱ(神奈川)、2009.11.4
- 39) 花輪壽彦: Major contributions to WHO's work in the field of traditional medicine Dec 2006 -Nov 2009 The fifth meeting of WHO collaboratiog center for traditional medicine Melbourne2009.11.11
- 40) 伊藤 剛: 「冷え」解消マニュアル mini (宝島社) 1月号: 115-119、2009.12.1
- 41) 早崎知幸: メディカル ドキュメンタリ“名医”、EBSTV、2009.12.4
- 42) 花輪壽彦: 腎・尿路の東洋医学、北里大学医学部3学年腎・尿路系Ⅰ(神奈川)、2009.12.11

#### ◇受賞

- 1) 花輪壽彦: 日本東洋医学会大塚敬節記念東洋医学賞、2009.6.21
- 2) 早崎知幸、第26回和漢医薬学会学術大会プレナリーセッション受賞、2009.8.30

### I-1-2. 鍼灸診療部

部長(医師)	伊藤	剛(兼務)
医員(医師)	伊東	秀憲(兼務)
非常勤(医師)	石野	尚吾
非常勤(医師)	柳澤	紘
科長補佐(鍼灸師)	小山	基
係長(鍼灸師)	石原	武
助手(鍼灸師)	井田	剛人
鍼灸師レジデント	黒岩	奈々子
鍼灸師レジデント	和田	志帆
非常勤 鍼灸師	掛川	一五
非常勤 鍼灸師	益山	亜紀子

#### ◇診療概要

東洋医学総合研究所の鍼灸診療部の外来診療には、医師4名(常勤2名、非常勤2名)ならびに鍼灸師4名(常勤2名、非常勤2名)の8名が交代あたり、鍼灸助手1名、鍼灸師レジデント2名、研修生16名(医師4名、鍼灸師12名)ならびに看護師1名がサポートしている。診療は祭日を除く、月曜日から金曜日までの午前・午後と土曜日の午前を予約制で行っている。

初診患者の予診は医師と鍼灸師が行っているが、予診結果については必ず常勤医師2名が現代医学的チェックを行い、新患については毎週1回(金曜日)、診療スタッフと研修生とで新患検討会を行い、病名ならびに現代医学的判断を行い鍼灸治療方針の確認を行っている。

また新聞・テレビなどのマスコミの取材等も積極的に受け入れ、平成21年は冷え症と鍼灸関係のテレビ番組出演が3回あり(伊藤)、新患患者の増加を認めた。なお、平成21年の初診患者数は721人であり、外来患者受診数は12548人であった。

#### ◇教育概要

教育と研究を充実させるため平成19年に本邦初の鍼灸師レジデント制度を設け、平成21年度は2月に試験を行い1名のレジデントを採用した。鍼灸師レジデントは原則2年間の研修で、鍼灸の診療技術だけでなく、古典医学と現代医学の知識、研究に必要な技術を習得し、世界的な視野を持った鍼灸師を育成する事に目的がある。それ以外にも鍼灸師(鍼灸研修生)、医師(漢方レジデント)、大学生(医学部学生、看護学部学生など)を対象に伝統的な鍼灸に加え、現代的な鍼灸学を踏まえた教育を実施した。鍼灸師研修生ならびに鍼灸師レジデントは研修日の診療研修以外に、毎週金曜日に行う新患検討会や、鍼灸古典抄読会、現代鍼灸論文(英文)抄読会などの勉強会に参加する事を義務付けた。平成21年は鍼灸古典として『難経集註』を用いた。また漢方医師レジデントには鍼灸輪読会と経穴・経絡実習、ならびに診療体験実習を隔週で週1回行った。

学生に対する教育では、医学部学生や看護学部学生に対する鍼灸講義ならびに鍼灸実習が行われた。伊藤は北里大学医学部、静岡県立大学看護学部、山梨県立大学看護学部で鍼灸講義と実習を行った。また毎年東医研主催で行っている「医学生のための夏期セミナー」では、全国から医学生や、東洋医学の研修を希望する医師達が集い、1週間、漢方や鍼灸、漢方薬、医史学、臨床研究、基礎研究などの講義や実習では脈診の採り方、鍼の刺入方法などを体験学習し、好評を博した。その他、一般市民に対しては、毎年東医研主催で秋に開催している「健康フォーラム」において、女性に役立つツボに関する講演を行い啓蒙活動に努めた。

#### ◇研究概要

WHOでは伝統医学を守る上で、Evidence-based health care practiceを推進している。当鍼灸部門でも世界的な視野から、臨床研究と基礎研究によりEBMを作り上げる必要がある。現在検討中の臨床研究では、冷え症に対する鍼灸治療効果、脈診など鍼灸診断の現代医学的評価、経絡治療の意義など、基礎研究では、鍼の作用メカニズム、各経穴に対する鍼の生理的作用、経絡現象の解明などである。



これら鍼灸関係の研究から、6月には第58回全日本鍼灸学会学術大会に、「坐骨神経痛に本治法が有効であった鍼治療の一例」、「幻肢痛に鍼灸治療が奏効した1症例」、「脈証における季節変動について」、「北里研究所東医所19年間の鍼灸初診患者調査」など4演題を発表し、第60回日本東洋医学会学術総会には「胸脇苦満の現代医学的解明と臨床的意義」、「機能性胃腸症（FD）に対する鍼灸治療の効果」、「うつ症状を伴う筋膜炎に鍼灸治療が奏効した一症例」など3演題を発表した。また11月に行われた第61回日本自律神経学会総会では「冷え症の足冷却反応に対する自律神経バランスの影響」を報告した。

さらに平成21年3月には「機能性消化管障害の鍼灸医学的解明と治療」というテーマで、伊藤が上原記念生命科学財団の研究助成を受け、現在研究が進行中である。

#### ◇学術論文（総説）

- 1) 伊藤 剛：鍼灸医療と自律神経-消化管機能と経穴・経路-、自律神経、46 (3)：212-216、2009.1.1

#### ◇学術論文（その他）

- 1) 伊藤 剛：線維筋痛症に対する鍼灸治療、難治の疾患を対象とした鍼灸治療-医師による実践報告-、医道の日本、8月号、(791)：76-81、2009.8.1

#### ◇学会発表（一般演題）

- 1) 井田剛人、黒岩奈々子、矢吹杏子、石原武、小山基、伊東秀憲、伊藤剛、花輪壽彦：脈証における季節変動、第58回全日本鍼灸学会学術大会（埼玉）、2009.6.12
- 2) 石原武、小山基、柳澤紘、石野尚吾、伊藤剛、花輪壽彦：北里研究所東洋医学総合研究所の鍼灸初診患者調査19年間の動向、第58回全日本鍼灸学会学術大会（埼玉）、2009.6.12
- 3) 伊東秀憲、黒岩奈々子、矢吹杏子、井田剛人、小山基、石原武、伊藤剛、花輪壽彦：幻肢痛に鍼灸治療が奏効した一症例、第58回全日本鍼灸学会学術大会（埼玉）、2009.6.13
- 4) 小山 基、黒岩奈々子、矢吹杏子、井田剛人、石原 武、伊東秀憲、伊藤 剛、花輪壽彦：坐骨神経痛に本治法が有効であった鍼治療の一例、第58回全日本鍼灸学会学術大会（埼玉）、2009.6.13
- 5) 伊東秀憲、黒岩奈々子、矢吹杏子、井田剛人、小山基、石原武、伊藤剛、花輪壽彦：うつ症状を伴う筋膜炎に鍼灸治療が奏効した一

症例、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.21

- 6) 黒岩奈々子、矢吹杏子、井田剛人、伊東秀憲、石原武、小山基、伊藤剛、花輪壽彦：機能性胃腸症（FD）に対する鍼灸治療の効果、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.21
- 7) 伊藤 剛、若杉安希乃、及川哲朗、花輪壽彦：冷え症の足冷却反応に対する自律神経バランスの影響、第61回日本自律神経学会総会、2009.11.

#### ◇学会発表（講演）

- 1) 伊藤 剛：背診・切経からみる漢方診断、平成21年度日本東洋医学会関東甲信越支部第1回東京都部会（東京）、2009.10.18

#### ◇公開講座

- 1) 伊藤 剛：東洋医学よりみたメンタルヘルス-身体表現性障害-、第1回統合医療セミナー、2009年2月20日、東京（北里研究所病院）
- 2) 伊藤 剛：鍼灸の基礎 古代中国医学より現代鍼灸へ、第31回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー（東京）、2009.7.28
- 3) 伊藤 剛：鍼灸の理論 現代科学より見た鍼灸のメカニズム、第31回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー（東京）、2009.7.28
- 4) 伊東秀憲、小山 基：鍼灸の実際 鍼灸治療と臨床、第31回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー（東京）、2009.7.28
- 5) 伊藤 剛：鍼灸医学の実際 健康ライフを考える会、経済同友クラブ（東京）、2009.9.23
- 6) 伊藤 剛：女心と秋のツボ-女性のための東洋医学（漢方・鍼灸の立場から）-、第9回東洋医学健康フォーラム（東京）、2009.10.3
- 7) 伊東秀憲：『こんな病気に東洋医学』～鍼灸の立場から～、2009.11.8
- 8) 伊藤 剛：漢方診療にも役立つ鍼灸医学の知識、医師専門Acupunctureセミナー、予防医療臨床研究会講演・実技、（東京）、2009.11.8

#### ◇その他

- 1) 伊藤 剛：東洋医学を看護に生かす、山梨県立大学看護学科東洋医学講義（山梨）、2009.4.30
- 2) 伊藤 剛：東洋医学と西洋医学、静岡県立大学看護学部医療論講義（静岡）、2009.5.22
- 3) 伊藤 剛：「最終警告！ほんとは怖い家庭の医学」夏の冷え症スペシャル（冷房病とツボ）、テレビ朝日、2009.7.28
- 4) 伊藤 剛：むくみをセルフケアするなら、シリーズ体の不調を解明・解決プロジェクト

Vol.5, Domani 8月号:202、2009.8.1

- 5) 伊東秀憲:痛みと東洋医学、2009.9.25
- 6) 伊藤 剛:「冷え」解消マニュアル、mini(1月号)、p115-119、2009年12月1日、宝島社、東京

## I-2. 薬剤部門

薬剤部門長(薬剤師) 金 成俊(3/31退職)

薬剤部門長(医師・薬剤師)

村主 明彦(4/1~)(兼務)

### I-2-1. 薬剤部

部長(薬剤師)	金 成俊(3/31退職)
科長(薬剤師)	緒 方 千秋
科長補佐(薬剤師)	坂 田 幸治
主任(薬剤師)	中 村 恵子
部 員(薬剤師)	高 際 麻奈未
部 員(薬剤師)	室 生 真千子
部 員(薬剤師)	須 藤 岳 大
部 員(薬剤師)	山 下 知 子
部 員(薬剤師)	中 村 ひろみ
部 員(薬剤師)	星 真 奈 美
部 員(薬剤師)	矢 部 景 子(4/1入局)
非常勤 薬剤師	小 林 文 子
薬剤師レジデント	堀 成 寿(3/31退職)

#### ◇研究概要

本薬剤部は、漢方薬を専門に扱う診療機関内の薬剤部門である。当研究所は、臨床・研究・教育の責を担っている機関であることから、我々は臨床において、患者・医師へフィードバック可能で、診療に貢献できる研究を行っている。その研究は、DI(医薬品情報)に関連した内容(1)~(4)、科学的試験による研究(5)~(9)と、2つを柱としている。臨床において、常日頃から疑問に感じ、未だ尚十分に解明が為されていない内容について、北里東医研の特徴を活かした研究を行っている。今年の成果として、東京で開催された第60回日本東洋医学会学術総会において、高際麻奈未が「ポスター発表優秀賞」を受賞したことが挙げられる。

今年の研究内容は、昨年の研究テーマを継続し、一部の研究成果に関しては業務に反映し、学会にて発表・論文投稿を行った。また、新規の研究課題について、一部はその成果を来年の第130年会日本薬学会にて発表する予定である。

#### 1) 「リスクマネジメントの充実及び

プレアボイド報告の実施」

昨今、漢方薬を扱う薬局は少なくない。薬を扱うからには、その業務に対するリスクに西洋・漢方の違いはない。漢方を専門とする薬局であるか

らこそ、発信できるリスクに対するマネジメントや漢方医療の特殊性を活かしたプレアボイドについてまとめ、局内の充実をはかり、外部への積極的な発信・啓蒙を促進することを目的とする。

#### 2) 「服薬指導の充実を目的とした

患者対応Q&Aの作成」

患者による薬局への問い合わせ内容をまとめ、服薬指導に役立てる目的でFAQ形式に整理することを旨とする。そして、今後の窓口や電話の問い合わせに対し、迅速に対応できるよう、また新人薬剤師教育に役立てることを目的とする。

#### 3) 「漢方薬と西洋薬の併用実態調査及び

各疾患における漢方薬の有用性の検討」

西洋医学的治療に対して、漢方薬の併用による症状・愁訴の改善、薬剤減量の可能性を調査・解析することによって漢方治療独自の意義を見出すことを目的とする。

#### 4) 「日本・中国における漢方処方に対する

使用目標の変遷調査及び服薬指導への活用」

東医研類用処方について、処方原典及び日本漢方における使用目的を調査し、使用目標の変遷を理解し、服薬指導に役立てる。

#### 5) 「漢方薬レトルトパックにおける安全性の検討」

煎剤を毎日煎じられない患者に対して提供している漢方薬レトルトパックの品質について、成分・風味及び細菌学的な視点からその安定性・安全性を検討する。

#### 6) 「漢方薬(煎剤)に対するマスキングの検討」

比較的飲みづらいとされる黄連解毒湯の煎剤について、飲み易くさせるためのマスキングアイテムの検索及びマスキングによる煎剤の有用性を検討し、服薬指導に役立てることを旨とする。

#### 7) 「臨床における生薬の簡便な品質評価法に

対する検討」

生薬の品質評価は経験則による主観的な評価を主とするが、さらに客観的で簡便・安価な評価法の確立を目指し、臨床に応用する。

#### 8) 「漢方薬(煎剤)中に存在する無機元素量の解明」

疾患によっては摂取制限がある無機元素がある。医療用漢方製剤においては含有する無機元素量はよく調査されているが、煎剤については十分に解明されていないことから、その全容を明らかにし、臨床に役立てることを目的とする。

#### 9) 「漢方薬の経験的な服薬指導と

科学的な根拠についての検討」

漢方薬の煎じ方(調製法)、服用方法、服用時間、服用温度などの服薬指導は、経験的に行われていて、その中には根拠がないものも多い。漢方薬の治療効果を最大限に発揮するためには、不明瞭な部分は明確にしていく必要がある。それらに関す

文献調査及び近年の研究内容を調査し、必要に応じて科学的な根拠の証明を行い、漢方薬の服薬指導に役立てることを目的とする。

#### ◇薬剤業務の活動内容

昨年より計画が進行していた印刷物による患者への漢方薬の構成生薬と効能に関する情報提供が1月26日よりスタートした。その内容は、オーダーリングシステムに登録されている生薬約200種、漢方処方約500首ついで北里東医研オリジナル「おくすりの説明書」である。患者からは「大変わかりやすい」との好評を得ている。記載内容については、薬剤部と医師とで協議したものである。

#### ◇教育啓蒙活動

北里学園との法人統合により、北里大学薬学部と更に深い関わりを持つようになった。薬剤部所属の薬剤師が講師として“東洋医学概論”や“生薬学”のなかで講義を行った。“生薬学”の中で、2年生を対象に早期体験実習として、東医研薬局や資料展示室での見学・講義を行った。また、新しい試みとして、毎年夏期に行っている「医学生・臨床医のための東洋医学セミナー」に薬学生の受講希望者の募集を行った。薬学部においても薬学教育モデル・コアカリキュラムである「現代医療の中の生薬・漢方薬」として、漢方医学の考え方や基本知識と技能を修得することが義務づけられた。しかし、薬学教育の中では講義が出来る環境整備は十分ではない。そのため、薬学生に対するこのような漢方を熟知した臨床医や薬剤師によるセミナーは有意義である。

他薬学大学における教育活動として、例年通り、明治薬科大学に講師を派遣し、病院漢方薬局の業務に関して講義を行った。横浜薬科大学薬学生には早期体験実習として、当施設での見学・講義を行った。また、市民講座において、漢方薬や生薬の知識向上の為に、当薬剤部へ講師の依頼もあり、漢方薬の試飲なども行った。

国内外からの見学者の受け入れも数多く行った。

#### <教育（講義・実習）・見学研修>

○2009/8/4：韓国順天大学、圓光大学漢医学科学生4名、見学研修（緒方千秋・坂田幸治）

○2009/7/29：医学生・臨床医のための東洋医学セミナー講義「漢方薬学」生薬（坂田幸治）・調剤の実際（中村恵子）・薬局実習（薬剤部全員）

○2009/8/8：横浜薬科大学学生・金成俊教授他、見学研修（緒方千秋・坂田幸治）

○2009/8/27：北海道医療大学薬学部学生山田智之、見学（緒方千秋）

○2009/9～12（9回）：北里大学薬学部2年生学生281名・小林教授・白畑講師、薬局実習（薬剤部全員）

#### ◇受賞

1) 高際麻奈未、金成俊、坂田幸治、緒方千秋、石野尚吾、村主明彦、花輪壽彦：漢方薬レトルトパックの保存時における品質の経時的変化、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20

#### ◇学術論文（学会誌）

1) 高際麻奈未、金成俊、石野尚吾、花輪壽彦：当研究所漢方外来における処方解析、日本東洋医学雑誌、60（1）：49-60、2009.1.20

#### ◇学会発表（一般演題）

1) 室生真千子、緒方千秋、金成俊、齋藤絵美、早崎知幸、伊藤剛、石野尚吾、村主明彦、花輪壽彦：漢方薬と西洋薬の併用実態及び精神神経疾患における漢方薬の有用性、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20

2) 須藤岳大、坂田幸治、緒方千秋、金成俊、石野尚吾、村主明彦、花輪壽彦：黄連解毒湯に対する飲料水混合時における成分含有量の検討、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20

3) 高際麻奈未、金成俊、坂田幸治、緒方千秋、石野尚吾、村主明彦、花輪壽彦：漢方薬レトルトパックの保存時における品質の経時的変化、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.21

4) 須藤岳大、坂田幸治、緒方千秋、村主明彦、花輪壽彦：黄連解毒湯に対する飲料水混合時における成分含有量の検討（第2報）、日本東洋医学会第66回関東甲信越支部学術総会（栃木）、2009.9.27

#### ◇学会発表（特別講演）

1) 坂田幸治：病院・開局薬剤師のための漢方講座、第26回和漢医薬学会学術大会（千葉）、2009.8.30

#### ◇公開講座

1) 緒方千秋：薬剤師として知っておきたい漢方の世界、北里大学薬友会生涯教育講座 2009.5.23

2) 中村恵子：薬草の話、第9回東洋医学健康フォーラム（東京）、2009.10.3

3) 緒方千秋：漢方薬の服薬指導に必要な知識、

感冒・インフルエンザ罹患時のコンプライアンス・治療効果向上のための知識、東京漢方調剤フォーラム2009（東京）、2009.10.4

- 4) 緒方千秋：漢方薬の服薬指導の実際、明治薬科大学薬剤師生涯学習講座（東京）、2009.10.11
- 5) 緒方千秋：こんな病気に東洋医学 ～漢方・鍼灸の立場から～ 生薬と漢方薬、第47回北里祭（神奈川）、2009.11.8

#### ◇その他

- 1) 緒方千秋：メンタルヘルス-身体表現性障害-漢方薬・生薬、第1回統合医療セミナー（東京）、2009.2.20
- 2) 緒方千秋：生薬の臨床応用、北里大学薬学部2年前期 生薬学Ⅰ（東京）、2009.6.5
- 3) 坂田幸治：アトピー性皮膚炎、第2回統合医療セミナー（東京）、2009.8.18
- 4) 緒方千秋：漢方医療と薬剤師、北里大学薬学部2年後期 生薬学Ⅱ（東京）、2009.9.11
- 5) 坂田幸治：医療用漢方処方、北里大学薬学部3年後期、東洋医学概論（東京）、2009.10.21
- 6) 緒方千秋：漢方薬の調剤、北里大学薬学部3年後期、東洋医学概論（東京）、2009.10.28
- 7) 坂田幸治：生薬の生産と流通、北里大学薬学部2年後期 生薬学Ⅱ（東京）、2009.11.20

## Ⅱ. 研究部門

研究部門長 山田陽城（兼任）

### Ⅱ-1. 臨床研究部

部長	及川哲郎
室長	日向須美子
上級研究員	伊藤直樹
上級研究員	遠藤真理
研究員	金成俊（兼務）（～21.3）
研究員	坂田幸治（兼務）
研究生	米田吉位
研究生	有島武志
研究生	関口敦子（～21.3）
研究生	秋元寛正（～21.3）
研究生	小池陽子（～21.3）
研究生	高谷真由美（～21.3）
研究生	大澤麻美（～21.3）
研究生	羽生あい（～21.3）
研究生	富永裕子（～21.3）
研究生	竹田和歌葉
研究生	井上愛子（～ ）

### 漢方研究室

室長 村主明彦（兼務）

研究員	伊藤剛（兼務）
研究員	鈴木邦彦（兼務）
研究員	早崎知幸（兼務）
研究員	小田口浩（兼務）
研究員	五野由佳理（兼務）
研究員	齋藤絵美（兼務）
研究員	星野卓之（兼務、21.4～）
研究員	望月良子（兼務）
研究員	山田和美（兼務）
研究員	石井恵美（兼務）
研究員	福田知顕（兼務）
研究員	洪里和良（兼務）
研究員	頼建守（兼務）
研究員	櫻井正智（兼務）
研究員	高橋裕子（兼務）
研究員	渡辺浩二（兼務）（21.4～）

### 鍼灸研究室

室長	伊藤剛（兼務）
研究員	伊東秀憲（兼務）
研究員	小山基（兼務）
研究員	石原武（兼務）
研究員	天野陽介（兼務）
研究員	井田剛人（兼務）
研究員	黒岩奈々子（兼務）
研究員	和田志帆（兼務）
研究員	矢吹杏子（兼務）（～21.3）
研究員	石野尚吾（兼務）
研究員	柳澤紘（兼務）
研究員	掛川一五（兼務）
研究員	益山亜紀子（兼務）

### 大学院学生

博士課程	蒲生裕司（～21.3）
博士課程	星野卓之（～21.3）
博士課程	渡辺浩二（～21.3）
博士課程	八代忍
博士課程	津田篤太郎
博士課程	猪健志（21.4～）
修士課程	加藤耕平（21.4～）

#### ◇研究概要

臨床研究部は、漢方診療部および鍼灸診療部との連携のもとで、漢方薬や鍼灸の臨床効果の評価を行うと共に、その作用機序の解明や新たな薬効の開発を目的とした臨床研究、基礎研究を行っている。そのため、専任のスタッフのみならず、医師、鍼灸師、薬剤師等の多くが兼務研究員として参画し、以下の研究を行っている。

当研究部の研究テーマは多岐にわたっている

が、大きく分けると下記のようにまとめられる。

## 1. 消化管に及ぼす漢方薬の影響に関する研究

### (1) 機能的消化管疾患に対する漢方処方薬の薬効評価

漢方薬は胃腸によいといわれるが、漢方処方が消化管機能にどのような影響を及ぼしているか、これまで十分なデータが示されてこなかった。当研究部ではFunctional dyspepsiaや過敏性腸症候群といった機能的消化管疾患に焦点を当て、胃排出機能や腸管ガス量測定などを用いた漢方処方の薬効評価を試みている。

### (2) 呼気試験を用いた消化機能研究

<sup>13</sup>C化合物による呼気試験を用いて、漢方処方の消化機能に及ぼす影響を研究している。

(3) 炎症性腸疾患に対する漢方薬の有効性の検討  
年々増加しつつある、潰瘍性大腸炎等の炎症性腸疾患に対する漢方薬の効果や作用機序を、動物モデルを用いて検討している。

## 2. 精神神経疾患を中心とした気剤の薬効評価

### (1) 漢方薬および生薬の香りの中枢神経系に対する作用の解析

漢方薬および生薬の香りのうつ症状に対する効果を動物モデルで検討し、その詳細な作用メカニズムを様々な実験手法を用いて多角的に研究している。

### (2) 不安に対する気剤の効果の検討

東洋医学のみならず、精神医学、心理学、神経科学の知見を駆使して、不安に対する気剤の作用機序について検討している。

### (3) 気剤の効果の客観的評価

気血水理論の中で、「気」の解明は最も遅れている。我々は、「気」と密接に関連していると考えられる自律神経機能が、「気」の異常とどのように関連しているか、半夏厚朴湯をはじめとする気剤投与でどのような影響を受けるかを、瞳孔反応や心拍変動などを指標にして評価、解析している。

## 3. 悪性腫瘍に及ぼす漢方薬の効果と作用メカニズムの研究

### (1) がんの転移に対する漢方薬の作用機構の解明

漢方薬は、がんの補助療法として、術後の体力回復や化学療法・放射線療法の副作用軽減を目的として用いられている。しかし、私たちは、補助療法としての漢方治療ではなく、積極的にがんの再発を予防するような漢方治療を目指して、がん転移に対する漢方薬の作用の研究を行っている。がんの転移抑制効果を指標としたスクリーニング

を行い、候補となる処方を見出し、現在、その作用機構の解明を行っているところである。

### (2) がん化学療法の副作用軽減に関する研究

がん化学療法に伴う造血障害や末梢神経障害などの副作用軽減に、漢方薬の併用が有効かどうか、基礎ならびに臨床的に検証を行っている。

## 4. 婦人科系疾患に用いられる漢方薬の作用機序解明

漢方薬は婦人科系疾患に用いられることが多いが、漢方薬自身に女性ホルモン（エストロゲン）様作用があるのかどうかについては、明らかになっていなかった。漢方薬は経験的に安全性が高いと考えられおり、妊婦さんやホルモン感受性癌患者さんに投与されることもある。そこで、私たちは、漢方薬の安全性を科学的に評価するために、婦人科系疾患頻用漢方処方のエストロゲン様活性を*in vitro*及び*in vivo*で解析を行った。*in vitro*の解析では低レベルのエストロゲン様活性が検出されたが、*in vivo*の解析では、更年期モデルマウスの子宮に影響を与えることはなく、安全性が高いことが示唆された。さらに、婦人科系疾患頻用漢方処方のひとつの温経湯には、更年期モデルマウスの海綿骨密度の低下を回復させる効果があることを見出した。現在、ホルモン感受性がんに対して漢方薬が作用するのかどうか、また、温経湯が更年期以降の患者さんの骨密度の低下を予防できるのかどうかの解析を継続している。

## 5. 漢方薬と西洋薬の相互作用

抗がん剤やステロイド剤は、長期間の投与によって薬剤耐性を生じる。この原因のひとつとして、薬物トランスポーターの発現誘導が関与している。癌細胞や免疫系細胞に薬物トランスポーターが発現すると、薬物を細胞外へ排出するため、薬剤を投与しても効かなくなってしまう。また、このトランスポーターは基質特異性が低いため、一度発現すると、異なる種類の抗がん剤も細胞外へ排出してしまうため、多剤耐性を生じる。このような薬物トランスポーターの発現や機能を抑制する漢方薬を探索し、薬剤耐性を克服するための漢方治療を目指して研究を行っている。

## 6. 整形外科疾患に対する漢方薬の有効性の検証

種々の整形外科疾患に対して従来から治療に用いられてきた漢方薬の有効性を、さまざまな客観的な指標を導入して明らかにし、高いevidenceの構築を目指した臨床研究を行っている。

## 7. 漢方薬による副作用の予測診断法の開発

甘草が含有するグリチルリチン酸によって生じる偽アルドステロン症の発症前診断（遺伝子診断）法の開発を行っている。

8. 遺伝子発現解析法を使った漢方薬の効果の検討  
DNAチップを用いた網羅的遺伝子発現解析法を行うことによって、多成分系である漢方薬が人体へどのように作用しているかを研究している。

9. 冷え症の温熱生理学的解析

未だ科学的説明がされていない冷え症について、その病態と漢方方剤の有用性について臨床研究を行っている。

#### ◇学術論文-学会誌

- 1) Yoneta, Y., Hashiguchi, K., Takiguchi, Y., Hyon, S., Kim, S. J., Sakata, K., Odaguchi, H., Oikawa, T., Hanawa T. Clinical efficacy of takushato, a Kampo (Japanese herbal) medicine, in the treatment of refractory dizziness and vertigo - Comparison between standard and triple dose - J. Trad. Med. 26 (2): 68-73 2009.3.1
- 2) Watanabe, K., Hyuga, S., Hyuga, M., Sekiguchi, A., Endo, M., Tsuda, T., Oikawa, T., Yamaguchi, T., and Hanawa, T. Unkeito, a traditional Kampo formula, exhibits a selective estrogen receptor modulator-like activity. - Prevention of osteoporosis in ovariectomized mice · J. Trad. Med. 26 (1) 18-24 2009.3.16
- 3) Gamo, Y., Ito, N., Oikawa, T., and Hanawa, T. An anxiolytic-like effect of kososan is different from the effect of hangekobokuto on two anxiety models in mice J. Trad. Med. 26 (1) 11月17日 2009.3.16
- 4) Hidenori Ito, Sumiko Hyuga, Masashi Hyuga, Koji Watanabe, Tokutaro Tsuda, Tetsuro Oikawa, and Toshihiko Hanawa Suppression of motility of human breast cancer cells by human serum after intake of maoto J. Trad. Med. 26 (2) 51-60 2009.5.30
- 5) Oikawa, T., Ito, G., Hoshino, T., Koyama, H., Hanawa, T. Hangekobokuto (Banxia-houpo-tang), a Kampo medicine that treats functional dyspepsia Evid. Based Complement. Alternat. Med. 6 (3): 375-378 2009.9.1
- 6) Mari ENDO, Tetsuro OIKAWA, Takayuki HOSHINO, Tsutomu HATORI, Tsukasa MATSUMOTO, Toshihiko HANAWA Suppression of murine colitis by Kampo medicines, with special reference to the

efficacy of saireito J. Trad. Med. 26 (3) 110-121 2009.9.1

- 7) Naoki ITO, Takeshi YABE, Takayuki NAGAI, Tetsuro OIKAWA, Haruki YAMADA, and Toshihiko HANAWA A possible mechanism underlying an antidepressive-like effect of kososan, a Kampo medicine, via the hypothalamic orexinergic system in the stress-induced depression-like model mice Biol. Pharm. Bull. 32 (10) 1716-1722 2009.10.1

#### ◇学術論文（総説）

- 1) 及川哲郎：東洋（漢方）医学と自律神経～消化管機能の観点から～、自律神経、46(3):208-211、2009.6.1

#### ◇学術論文（症例報告書）

- 1) 及川哲郎、伊藤剛、鈴木邦彦、早崎知幸、花輪壽彦：潰瘍性大腸炎に対する漢方治療～当施設における初診患者の検討を含めて～、漢方の臨床、56 (1)、117-122、2009.1.25
- 2) Tsuda, T., Yashiro, S., Gamo, Y., Watanabe, K., Hoshino, T., Hyuga, S., Oikawa, T., and Hanawa, T. Corticosteroid sparing effect of Hachimijiogan in Mikulicz's disease: a case report, Kampo medicine Kampo medicine 60 (5) : 513-518 2009.9.1

#### ◇学会発表（一般講演）

- 1) 日向昌司、日向須美子、原島 瑞、山口照英、新見伸吾：アネキシンA3のノックダウンはHuH7細胞の腫瘍形成を抑制する、日本薬学会第129年会（京都）、2009.3.27
- 2) 及川哲郎、伊藤剛、芹澤宏、星野卓之、小田口浩、若杉安希乃、花輪壽彦：機能的消化管障害に対する半夏厚朴湯の有用性、第95回日本消化器病学会総会（北海道）、2009.5.8
- 3) 及川哲郎、米田吉位、玄世鋒、花輪壽彦：めまいに対する沢瀉湯治験、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.224]
- 4) 津田篤太郎、八代忍、星野卓之、渡辺浩二、蒲生裕司、日向須美子、及川哲郎、花輪壽彦：八味地黄丸によりプレドニゾロン減量が可能となった2症例、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20
- 5) 及川哲郎、遠藤真理、伊藤直樹、渡辺浩二、羽鳥努、齊藤紀彦、花輪壽彦：Paclitaxel惹起性末梢神経障害モデルマウスに対する漢方薬

- の効果、第26回和漢医薬学会学術大会（千葉）、2009.8.30
- 6) 伊藤直樹、矢部武士、永井隆之、及川哲郎、山田陽城、花輪壽彦：香蘇散の抗うつ様効果におけるオレキシン神経系の関与、第26回和漢医薬学会学術大会（千葉）、2009.8.30
  - 7) 遠藤真理、及川哲郎、羽鳥努、松本司、花輪壽彦：デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルに対する漢方薬の有効性～Balb/cマウスとC57BL/6マウスの比較検討～、第26回和漢医薬学会学術大会（千葉）、2009.8.30 [J. Trad. Med. 26別刷 p.85]
  - 8) 日向須美子、日向昌司、花輪壽彦：HGFにより誘導されるHepG2細胞の細胞分散及びMETチロシンリン酸化の麻黄湯による阻害、第26回和漢医薬学会学術大会（千葉）、2009.8.30
  - 9) Tetsuro Oikawa, Mari Endo, Naoki Ito, Koji Watanabe, Tsutomu Hatori, Norihiko Saito, Toshihiko Hanawa Efficacy of Kampo medicines on murine model of Paclitaxel-induced peripheral neuropathy The 68th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (JCA2009) in Yokohama, 2009.10.3
  - 10) Sumiko Hyuga, Masashi Hyuga, Toshihiko Hanawa, Maoto, a kampo medicine, suppresses the HGF-induced motility and scattering by directly inhibiting phosphorylation of MET The 68th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (JCA2009) in Yokohama 2009. 10.3
  - 11) 伊藤直樹、矢部武士、永井隆之、及川哲郎、山田陽城、花輪壽彦：漢方方剤「香蘇散」の抗うつ様効果発現におけるオレキシン神経系の関与、第19回日本臨床精神神経薬理学会・第39回日本神経精神薬理学会合同年会（京都）、2009.11.14
- ◇学会発表（シンポジウム，パネル）
- 1) 及川哲郎、早崎知幸、伊藤剛：消化器がんの緩和医療における漢方医学の役割、第95回日本消化器病学会総会（北海道）、2009.5.9
- ◇学会発表（講演）
- 1) 及川哲郎：北里東医研における漢方診療～消化器疾患を中心に～、日本東洋医学会熊本県部会教育講演（熊本）、2009.2.21
- ◇公開講座
- 1) 及川哲郎：消化器疾患の漢方治療、第85回昭和大学東洋医学研究会（東京）、2009.1.21
  - 2) 及川哲郎：整形外科疾患・痛みの漢方治療、第89回相模原市医師会東洋医学研究会（神奈川）、2009.2.17
  - 3) 及川哲郎：漢方胃腸薬は本当に効くか？、経済同友会産業懇談会（東京）、2009.3.5
  - 4) 及川哲郎：婦人科、皮膚科疾患と漢方、第90回相模原市医師会東洋医学研究会（神奈川）、2009.4.14
  - 5) 及川哲郎：漢方医学理論のまとめ、実習シリーズ1 腹診、第3回北里漢方医学セミナー（神奈川）、2009.6.24
  - 6) 及川哲郎：がんの緩和医療における漢方医学の役割、国立がんセンター緩和ケア連携カンファレンス（東京）、2009.7.9
  - 7) 及川哲郎：高齢者、精神科疾患と漢方、第91回相模原市医師会東洋医学研究会（神奈川）、2009.7.14
  - 8) 及川哲郎：消化器疾患の漢方治療、明治薬科大学薬剤師生涯学習講座（東京）、2009.7.26
  - 9) 及川哲郎：漢方医学の基礎 腹診、脈診、第31回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー（東京）、2009.7.27
  - 10) 及川哲郎、伊藤直樹：気剤を科学する、第31回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー（東京）、2009.7.29
  - 11) 伊藤直樹：気剤の漢方研究、明治薬科大学薬剤師生涯学習講座（東京）、2009.9.27
- ◇その他
- 1) 遠藤真理、及川哲郎、羽鳥努、松本司、花輪壽彦：デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルマウスに対する漢方薬の効果の検討～特に柴苓湯の有効性に関して、第5回北里研究所病院発表会、2009.11.23
  - 2) 伊藤直樹、矢部武士、永井隆之、及川哲郎、山田陽城、花輪壽彦：漢方方剤「香蘇散」の抗うつ様効果におけるオレキシン神経系の関与、第5回北里研究所病院発表会、2009.11.23
  - 3) 及川哲郎：症候からみる漢方 食欲不振・悪心・嘔吐・胸やけ、日本東洋医学会学術教育委員会編、専門医のための漢方医学テキスト 分担執筆：173-176、2009.12.10
- ◇研究助成金
- 1) 研究代表者 花輪 壽彦 分担研究者 日向須美子：平成21年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）、平成21年度、182万円
  - 2) 伊藤直樹：平成21年度文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）、234万円
  - 3) 遠藤真理：平成21年度文部科学省科学研究費

- 補助金 若手研究 (B)、平成21年度、78万円  
4) 伊藤直樹：平成21年度、北里学術奨励金33.3万円

#### ◇受賞

- 1) 渡辺浩二：第26回和漢医薬学会学術大会学会奨励賞受賞、2009.8.30  
2) 伊藤直樹：第26回和漢医薬学会学術大会ベストポスター受賞、2009.8.30

## II-2. 基礎研究部

部長	山田陽城(兼任) (北里生命科学研究所所長、北里生命科学研究所和漢薬物学研究室教授、同大学院感染制御科学府学府長・教授)
室長	清原寛章(兼任) (北里生命科学研究所和漢薬物学研究室准教授、同大学院感染制御科学府准教授)
室長補佐	永井隆之(兼任) (北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師、同大学院感染制御科学府講師)
室長補佐	矢部武士(兼任) (北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師、同大学院感染制御科学府講師)

#### ◇研究概要

基礎研究部では漢方薬の薬効の科学的解明を目的として、漢方方剤や生薬の薬理及びその作用成分の解明や作用機序の生化学的解明に関する研究を行った。特に漢方処方薬の薬効解明では臨床効果との関連を検討するため、臨床研究部との共同研究も進めた。研究テーマは「漢方処方薬の薬効の解明」、「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」、「和漢薬の新しい作用とその作用成分の解明」の3つに大別される。

本年度の研究テーマのうち、「漢方処方薬の薬効の解明」では、1) 麻黄湯のインフルエンザウイルス感染に対する作用の解析、2) 香蘇散の抗うつ作用の機序のプロテオーム解析、3) 加味温胆湯の抗うつ作用の機序の解析、4) 補中益気湯の腸管上皮細胞に対する作用と作用成分の解析 5) 小青竜湯の気管支喘息に対する作用の機序の解明について検討した。「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」では、和漢薬に由来する腸管免疫調節活性を有する各種の多糖の活性発現糖鎖の解明について検討した。「和漢薬の新しい作用とその作用

成分の解明」では、1) 和漢薬などの植物素材からのマラリア、トリパノソーマ、インフルエンザウイルスなどに対する抗感染症物質の探索研究、2) 和漢薬の中樞神経系に対する作用の解析のための基盤研究と中樞神経疾患の新しい治療薬の探索について検討を行った。

また、ノルウェーのオスロ大学との共同研究で同大学大学院生のTom Erik Grønhaugを留学研究生として受け入れ、マリ薬用植物の免疫調節多糖に関する共同研究を展開した。基礎研究部ではこの他国内やタイ、サウジアラビアなどの国外研究機関および大学などとの種々の共同研究を継続して進めている。

#### ◇著書

- 1) H.Yamada, H.Kiyohara and T.Matsumoto, "Recent studies on structures and intestinal immunity modulating activities of pectins and pectic polysaccharides from medicinal herbs", In Pectin and Pectinases, (edited by H. A. Schols, R.G. F. Visser and A.G.J. Voragen), 293-304, Wageningen Academic Publishers, 2009  
2) H.Yamada, "Alternative Medicine and Oriental Medicine", In Search of Evidence by Scientific Elucidation, (edited by K. Minami), 54-55, Yokendo Publishers, 2009

#### ◇原著

- 1) M.Wirotangthong, T.Nagai, H.Yamada, S.Amnuoypol and C.Mungmee Effects of Clinacanthus siamensis leaf extract on influenza virus infection, Microbiol. Immunol., 53(2), 66-74 (2009)  
2) E.Abdel-Sattar, F.M. Harraz, S.M.A.Al-Ansari, S.El-Mekkawy, C.Ichino, H.Kiyohara, K.Otoguro, S.Omura and H.Yamada Antiplasmodial and antitrypanosomal activity of plants from the Kingdom of Saudi Arabia, J. Nat. Med., 63(2), 232-239 (2009)  
3) E.Abdel-Sattar, N.G.Shebab, C.Ichino, H. Kiyohara, A.Ishiyama, K.Otoguro, S.Omura and H.Yamada, Antitrypanosomal activity of some pregnane glycosides isolated from Caralluma species, Phytomedicine, 16(6), 659-664 (2009)  
4) A.Ishiyama, K.Otoguro, M.Iwatsuki, M. Namatame, A.Nishihara, K.Nonaka, Y. Kinoshita, Y.Takahashi, R.Masuma, K. Shiomi, H.Yamada and S.Omura In vitro and in vivo



antitrypanosomal activities of three peptide antibiotics leucinostatin A and B, alamethicin I and tsushimycin, *J. Antibiot.*, 62(6), 303-308 (2009)

- 5) M.Yamada, Y.Takahashi, T.Kubota, J. Fromont, A.Ishiyama, K.Otoguro, H. Yamada, S.Omura and J.Kobayashi Zamamidine C, 3,4-dihydro-6-hydroxy-10,11- epoxymanzamine A, and 3,4-dihydromanzamine J N-oxide, new manzamine alkaloids from sponge *Amphimedon* sp., *Tetrahedron*, 65(4), 2313-2317(2009)
- 6) N.Ito, T.Yabe, T.Nagai, T.Oikawa, H.Yamada and T.Hanawa A possible mechanism underlying an antidepressive-like effect of Kososan, a Kampo medicine, via the hypothalamic orexinergic system in the stress-induced depression-like model mice, *Biol. Pharm. Bull.*, 32(10), 1716-1722(2009)
- 7) T.Nagai, M.Nakao, Y.Shimizu, Y.Kodera, M.Oh-Ishi, T.Maeda and H.Yamada Proteomic analysis of anti-inflammatory effects of a Kampo (Japanese herbal) medicine "Shoseiryuto (Xiao-Qing-Long-Tang)" on airway inflammation in a mouse model, *Evid. Based Complement. Alternat. Med.*, in press (doi 10.1093/ecam/nep151)
- 8) H.Kiyohara, K.Nonaka, M.Sekiya, T. Matsumoto, T.Nagai, Y.Tabuchi and H. Yamada Polysaccharide-containing macromolecules in a Kampo (traditional Japanese herbal) medicine, Hochuekkito Dual active ingredients for modulation of immune functions on intestinal Peyer's patches and epithelial cells, *Evid. Based Complement. Alternat. Med.*, in press (doi 10.1093/ecam/nep193)

#### ◇総説

- 1) 山田陽城：熱帯病のネグレクテッド・ディーズ治療薬開発へのDNDiによる取り組み, *MEDCHEM NEWS*, 19(1), 16-19(2009)

#### ◇プロシーディング

- 1) 永井隆之, 蓮見菜月, 橋本良子, 伊藤直樹, 矢部武士, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 花輪壽彦, 山田陽城：漢方薬の薬効解析へのプロテオミクスの応用：香蘇散の抗うつ様作用に関わる生体内タンパク質の探索, 第5回千葉疾患プロテオミクス研究会(Clinical Proteomics

in Chiba 2008)抄録集, p. 17-22 (2009)

#### ◇招待講演

- 1) H.Yamada : Recent Progress on Elucidation of Action Mechanism of Kampo (Japanese Herbal) Medicines, 12th SCBA (Society of Chinese Biologists in America) International Symposium, 台湾, 2009. 6. 15 ~ 18 (招待講演)
- 2) H.Yamada : Elucidation of Efficacy of Kampo Medicines for New Clinical Application and Drug Development, ICTM (International Conference on Traditional Medicine) 2009 Congress, 中国, 2009. 10. 9 ~ 11 (招待講演)
- 3) 山田陽城：基礎研究からわかった漢方薬の作用メカニズム, 第9回日本臨床中医薬学会学術大会, 東京, 2009. 10. 24 (特別講演)

#### ◇シンポジウム

- 1) H.Kiyohara, T.Matsumoto, T.Nagai and H. Yamada : Intestinal immune system target for herbal medicines, The Eight NRCT-JSPS, Joint Seminar, Bangkok (Thailand), 2009. 2. 3 ~ 4
- 2) 清原寛章：粘膜免疫調節剤としての補剤の役割, 第8回腸管の機能と免疫研究会学術集会, 東京, 2009. 2. 14
- 3) 永井隆之：プロテオミクスの漢方薬の薬効解析への応用-香蘇散の抗うつ様活性に関与する脳及び血清タンパク質の解析-, 日本ヒトプロテオーム機構 (JHUPO) 第7回大会, 東京, 2009. 7. 27 ~ 28
- 4) T.Nagai, H.Yamada : Anti-allergic effects of a Kampo (Japanese herbal) medicine "shoseiryuto (xiao-qing-long-tang, so-cheong-ryong-tang)" on airway inflammation in a mouse model, The First International Meeting on Japan-China-Korea Traditional Medicine (第1回日中韓伝統医薬学会), Tokyo, 2009. 10. 25

#### ◇学会発表

- 1) MatJusoh Mohdzulkefeli, 石山亜紀, 乙黒一彦, 山田陽城, 大村 智, 青木 伸：二核 (亜鉛-大環状ポリアミン) 錯体の設計, 合成と抗トリパノソーマ活性, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 2) 西澤 愛, 松本 司, 清原寛章, 渥美隆正, 外岡憲明, 山田陽城：タラノキエキス中の表皮ケラチノサイトに対するアポトーシス抑制成分の解析, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28

- 3) 関谷路子, 清原寛章, 松本 司, 山田陽城: 補中益気湯の腸上皮細胞に対する免疫機能調節作用成分の解析, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 4) 関谷路子, 清原寛章, 松本 司, 山田陽城: 漢方薬と”おなか”の免疫系-西洋薬にはないその働きの秘密に迫る-, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28 (ハイライトポスター)
- 5) 白畑辰弥, 平田 望, 永井隆之, 清原寛章, 山田陽城, 梶 英輔: 糖4位に桂皮酸エステルを有するサポニンの合成研究, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 6) 和泉直行, 山本 剛, 宇井英明, 末木啓人, 増間碌郎, 野中健一, 廣瀬友靖, 砂塚敏明, 永井隆之, 山田陽城, 塩見和朗, 大村 智: 糸状菌の生産する新規抗インフルエンザウイルス物質wickerol類の単離、構造、および活性, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 7) 石山亜紀, 乙黒一彦, 生田目 幸, 西原明希, 古澤俊章, 塩見和朗, 高橋洋子, 増間碌郎, 市村通朗, 山田陽城, 大村 智: 微生物代謝産物由来の抗トリパノソーマ原虫活性物質の探索研究, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 8) 永井隆之, 牧野聖也, 池上秀二, 山田陽城: 乳酸菌*Lactobacillus delbrueckii ssp. bulgaricus* OLL1073R-1で発酵したヨーグルト及び産生多糖体のインフルエンザウイルス感染防御効果, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 9) 永井隆之, 牧野聖也, 池上秀二, 山田陽城: ヨーグルトを食べてインフルエンザ予防?!, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28 (ハイライトポスター)
- 10) 片岡枝里花, 永井隆之, 山田陽城: 漢方方剤「麻黄湯」のマウスにおける抗インフルエンザウイルス活性, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 11) 木下雄太, 岩月正人, 森 美穂子, 新妻 恵, 橋田純子, 宇井英明, 塩見和朗, 野中健一, 増間碌郎, 石山亜紀, 生田目 幸, 西山明希, 古澤俊章, 乙黒一彦, 山田陽城, 大村 智: アフリカトリパノソーマ症治療薬の探索, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 12) 袴田恭子, 羽田紀康, 志村 亮, 山田陽城, 竹田忠紘: ナイモウオウギ由来多糖に関するモデル化合物の合成研究 (3), 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 13) 中村貴幸, 永井隆之, 佐々木寛朗, 木下 薫, 小山清隆, 古畑公夫, 山田陽城, 高橋邦夫: Biflavonoidオリゴ配糖体の合成と抗インフルエンザウイルス活性の検討, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 14) 蓮見菜月, 永井隆之, 伊藤直樹, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 花輪壽彦, 山田陽城: 漢方方剤「香蘇散」の抗うつ様作用に関わる生体内タンパク質のプロテオーム解析による検討, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 15) 原田成彦, 矢部武士, 伊藤直樹, 山田陽城: 海馬の神経新生に対する加味温胆湯の作用, 日本薬学会第129年会, 京都, 2009. 3. 26 ~ 28
- 16) 牧野聖也, 池上秀二, 永井隆之, 山田陽城: 多糖体産生乳酸菌*Lactobacillus delbrueckii ssp. bulgaricus* OLL1073R-1で発酵したヨーグルト及び産生多糖体のインフルエンザウイルス感染防御効果, 日本食品免疫学会2009年度大会 設立5周年記念学術大会, 東京, 2009. 5. 26 ~ 27
- 17) 関谷路子, 清原寛章, 矢部武士, 山田陽城: 腸上皮細胞の免疫調節機能に対する漢方方剤「補中益気湯」の作用の解析, 第22回バイオサイエンスフォーラム, 東京, 2009. 8. 3 ~ 4
- 18) 永井隆之, 片岡枝里花, 山田陽城: 麻黄湯のインフルエンザウイルス感染に対する有効性及び薬効発現機序の検討, 第26回和漢医薬学会学術大会, 千葉, 2009. 8. 29 ~ 30
- 19) 高田愛美, 永井隆之, 山田陽城: 小青竜湯とステロイド薬の気道炎症モデルマウスに対する作用の比較, 第26回和漢医薬学会学術大会, 千葉, 2009. 8. 29 ~ 30
- 20) 関谷路子, 清原寛章, 矢部武士, 山田陽城: 腸上皮細胞の免疫機能に対する補中益気湯の作用の解析, 第26回和漢医薬学会学術大会, 千葉, 2009. 8. 29 ~ 30
- 21) 矢部武士, 原田成彦, 伊藤直樹, 永井隆之, 山田陽城: グルココルチコイドによる神経新生の低下に対する加味温胆湯の作用, 第26回和漢医薬学会学術大会, 千葉, 2009. 8. 29 ~ 30
- 22) 伊藤直樹, 矢部武士, 永井隆之, 及川哲郎, 山田陽城, 花輪壽彦: 香蘇散の抗うつ様効果におけるオレキシン神経系の関与, 第26回和漢医薬学会学術大会, 千葉, 2009. 8. 29 ~ 30
- 23) 清原寛章, 市野 力, 山田陽城, 乙黒一彦, 石山亜紀, 生田目幸, 西原明希, 岩月正人, 大村 智: Noppamas Soonthornchareonnon, Wongsatit Chuakul, Essam Abdel-Satter, Fathalla M. Harraz, Soliman M.A. Al-ansari 植物素材からのアフリカ睡眠病原原因原虫に対する抗感染薬シーズの探索, 日本生薬学会第56回年会, 京都, 2009. 10. 3 ~ 4
- 24) 牧野聖也, 池上秀二, 永井隆之, 山田陽城:

Marie-Rose Van Calsteren 多糖体産生ブルガリア菌OLL1073R-1株で発酵したヨーグルト及び産生多糖体のインフルエンザウイルス感染防御効果, 第39回日本免疫学会総会・学術集会, 大阪, 2009.12.2 ~ 4

#### ◇その他

- 1) 山田陽城: Recent Progress on Elucidation of Mechanism of Action and Active Ingredients of Kampo Medicines, Gottingen大学での講演, ドイツ, 2009. 4. 29
- 2) 山田陽城: 免疫機能の活性化と健康維持, マスコミセミナー「1073R-1乳酸菌の機能性」, 東京, 2009. 10. 15
- 3) 山田陽城: 北里大学における感染制御研究の使命と役割, 平成21年度第2回北里大学PPA地区懇談会での講演, 福岡, 2009. 10. 25
- 4) 山田陽城: 薬理作用から見た漢方薬の特徴, 関東大学漢方研究会での講演, 東京, 2009. 12. 6

### II-3. 医史学研究部

部長	小曾戸 洋
研究員	天野陽介 友部和弘 大津幸恵
客員研究員	アンドリュウ・ゴープル 猪飼祥夫 市川友里 浦山きか 大浦宏勝 郭秀梅 小林健二 清水信子 鈴木達彦 舘野正美 長野仁 西巻明彦 平馬直樹 町泉寿郎 宮川浩也 矢数芳英
一般研究員(生)	永塚憲治 野澤隆幸

#### ◇研究概要

当研究部の前身は1983年に設置された医史学研究室で,1992年12月より医史学研究部に昇格し,この下に医史文献研究室が置かれる.東洋医学は古い歴史を持つ伝統医学であるから,豊富な経験と

知識の多くは古文書の形で伝えられている.従って,東洋医学を研究し,現代に十分に活用していくためには,まず歴史背景そして文献資料を把握し,その本質を明らかにする必要がある.これが当研究部の研究目的とするところで,開設以来,各研究員によって多種多彩な研究が活発になされ,日本医史学会・日本東洋医学会をはじめ,各種の学会で大きな成果を上げている.研究の基本的資料となる文献の整備にも精力を注ぎ,既に日本全国はもとより,外国の特殊研究機関と交流を結び,多くの貴重資料を獲て収蔵している.

#### ◇学術論文

- 1) 町泉寿郎・天野陽介・小曾戸 洋: 目でみる漢方史料館(245) 多紀元簡・片倉鶴陵賛の張仲景像、漢方の臨床、56(1)、2月4日、2009.1.1
- 2) 町泉寿郎・天野陽介・小曾戸 洋: 目でみる漢方史料館(246) 加藤謙斎の肖像-新出、漢方の臨床、56(2)、202-204、2009.2.1
- 3) 小曾戸 洋・天野陽介: 『医学天正記』の異本類、二松学舎大学21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」研究成果報告書『ワークショップ 曲直瀬道三-古医書の漢文を読む-』、53-96、2009.3.31
- 4) 天野陽介・小曾戸 洋・町泉寿郎: 日本医家の肖像画-曲直瀬家肖像画とその周辺、二松学舎大学21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」研究成果報告書『ワークショップ 曲直瀬道三-古医書の漢文を読む-』、207-236、2009.3.31
- 5) 小曾戸 洋: 『啓迪集』の書誌研究、二松学舎大学21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」研究成果報告書『ワークショップ 曲直瀬道三-古医書の漢文を読む-』、7月14日、2009.3.31
- 6) 小曾戸 洋、天野陽介: 目でみる漢方史料館(248) 渋江抽斎の墓碑、漢方の臨床、56(5)、786-788、2009.5.1
- 7) 小曾戸 洋、天野陽介: 目でみる漢方史料館(250) 新出の『医学天正記』異本・『治験録』(1)、漢方の臨床、56(8)、1278-1280、2009.8.1
- 8) 小曾戸 洋、天野陽介: 目でみる漢方史料館(251) 新出の『医学天正記』異本・『治験録』(2)、漢方の臨床、56(9)、1454-1456、2009.9.1
- 9) 小曾戸 洋、天野陽介、和智明彦: 目でみる漢方史料館(252) 新出の浅田宗伯肖像画、漢方の臨床、56(10)、1630-1632、2009.10.1

#### ◇学会発表（一般演題）

- 1) 天野陽介・小曾戸 洋：『医学天正記』異本類の比較研究 第110回日本医史学会学術大会（佐賀）、2009.6.6 [日本医史学雑誌、55巻2号、p.179]
- 2) 野澤隆幸、天野陽介、小曾戸 洋：『医道日用綱目』の版種について、第110回日本医史学会学術大会（佐賀）、2009.6.6 [日本医史学雑誌、55巻2号、p.180]
- 3) 天野陽介、宮川浩也、小曾戸 洋：張家山出土『引書』の研究（1）、第58回全日本鍼灸学会学術大会（埼玉）、2009.6.13 [全日本鍼灸学会雑誌、59（3）、p.332]
- 4) 宮川浩也、天野陽介：チベットの治療器具、第58回全日本鍼灸学会学術大会（埼玉）、2009.6.14 [全日本鍼灸学会雑誌、59（3）、p.438]
- 5) 天野陽介、小曾戸 洋、和智明彦、花輪壽彦、石野尚吾、石川友章、浅田宗伯の肖像、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.263]
- 6) 小曾戸 洋、天野陽介、星野卓之、渡辺浩二、蒲生裕司、矢数芳英、花輪壽彦：『薬治通義』の研究 中国に及ぼした影響、第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.20 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.264]

#### ◇学会発表（講演）

- 1) 小曾戸 洋：中国医学理論の形成-陰陽・五行・十二経絡、日本東洋医学会熊本県部会（熊本）、2009.2.21
- 2) 小曾戸 洋：鍼灸古典とその学び方、東洋療法学校協会学術大会（京都）、2009.10.8

#### ◇公開講座

- 1) 小曾戸 洋：環流する医学古典 日本から中国へ、福岡医師漢方研究会（福岡）、2009.4.18

### Ⅲ. 臨床試験部門

臨床試験部門長 花 輪 壽 彦

#### Ⅲ-1. EBMセンター

室 長 小 田 口 浩  
室 員 若 杉 安 希 乃

#### ◇研究概要

EBMセンターの目的は漢方医学におけるEvidenceの構築であり、臨床試験の実施が中心となる。本年度は昨年開始した、漢方医学診断に客観性をもたせるための疫学的研究を軌道に乗せた。北里研究所病院との共同研究では、インフルエンザに対する漢方薬の有用性を検証する臨床試

験が終了し、解析中である。他方、過活動膀胱や過敏性腸症候群を対象とした臨床試験は続行中で、2010年度に終了する予定である。また随証治療効果の検討を目的とした臨床研究、漢方診療過程を客観化する試みなども進行中であり、今後も活動範囲を拡大していく予定である。

#### ◇学術論文（総説）

- 1) 小田口 浩、若杉安希乃、及川哲郎、花輪壽彦：慢性頭痛と呉茱萸湯・五苓散、漢方と最新治療、18、103-107、2009.5.1
- 2) 若杉安希乃、小田口 浩、花輪壽彦：漢方薬に対するレスポonder・ノンレスポonder、薬局、60(12)、3543-3548、2009.11.5

#### ◇学会発表（一般演題）

- 1) Akino Wakasugi, Hiroshi Odaguchi, Emi Saito, Yukari Gono, Tomoyuki Hayasaki, Kunihiko Suzuki, Tetsuro Oikawa, Go Ito, Akihiko Muranushi, Toshihiko Hanawa Kitasato Kampo Finding Project 2 -Reliability- 第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.21 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.392]
- 2) Hiroshi Odaguchi, Akino Wakasugi, Emi Ishii, Tomoaki Fukuda, Kazuyoshi Kori, Tetsuro Oikawa, Toshihiko Hanawa Kitasato Kampo Finding Project 3 -cross-sectional and cohort study-, 第60回日本東洋医学会学術総会（東京）、2009.6.21 [日本東洋医学雑誌 60別冊、p.393]
- 3) 若杉安希乃、上口美希、北澤加奈子、小田口 浩、及川哲郎、氏原 淳、花輪壽彦：本邦初「漢方医学的所見を検証する横断研究、前向きコホート研究」におけるCRCの連携-ベースライン調査について-、第9回CRCと臨床試験のあり方を考える会議（神奈川）、2009.9.12
- 4) 若杉安希乃、上口美希、北澤加奈子、小田口 浩、及川哲郎、花輪壽彦：本邦初「漢方医学的所見を検証する横断研究、前向きコホート研究」におけるCRCの連携、第30回日本臨床薬理学会（神奈川）、2009.12.5

#### ◇公開講座

- 1) 小田口 浩：研究結果とリンクした気剤の使い方、第33期JPS漢方特別講座（東京）、2009.2.8
- 2) 小田口 浩：西洋医学を学んだ医師は漢方をどのようにとらえるべきか、第31回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー（東京）、2009.7.31

#### ◇その他

- 1) Hiroshi Odaguchi The Clinical Role and

Achievement of Kampo(Japanese Traditional) Medicine(Seoul, Korea)The Symposium for the 60th Anniversary of the Foundation of Kyung Hee University and the 20th Anniversary of the Designation of the East -West Medical Research Institute as the WHO Collaborating Centre for Traditional Medicine2009.4.18

- 2) 若杉安希乃：漢方臨床試験、山梨県立大学看護学科東洋医学講義（山梨）、2009.4.23
- 3) Hiroshi Odaguchi Kitasato Kampo Finding Project(Seoul,Korea)、BIO KOREA 2009 2009. 9.16
- 4) 小田口 浩：漢方の基礎、興和社内勉強会（東京）、2009.10.29
- 5) 若杉安希乃：漢方のEBM、北里大学薬学部3年後期、東洋医学概論（東京）、2009.11.4

◇研究助成金

- 1) 若杉安希乃：平成21年度文部科学省科学研究費補助金、100万円（挑戦的萌芽研究）
- 2) 小田口浩：平成21年度厚生労働省科学研究費補助金、233万円（地域医療基盤開発推進研究事業）

#### IV. WHO伝統医学研究協力センター

センター長 花 輪 壽 彦（兼務）  
事務局長 小 田 口 浩（兼務）